

# 年頭のごあいさつ

横河電機健康保険組合  
理事長 松井幹雄



## 新年明けましておめでとうございます。

事業主ならびに被保険者の皆さまには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、当健康保険組合の事業運営に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、厚生労働省が発表した医療費動向によると、平成30年度の概算医療費は、42.6兆円で、前年度比0.8%増となりました。人口減少による0.2%の押し下げ効果のほか、高齢化に伴う増加が1.1%にとどまったこと、また、診療報酬のマイナス1.19%改定が影響したため、年2%程度ずつ伸びる最近の傾向に比べると鈍化したものとなりました。しかしながら、それは一時的なものであり、今後、団塊の世代が75歳に到達しはじめる2022年を迎えるなど、人口の高齢化と医療の高度化により引き続き医療費は増加をしていくことが考えられます。

一方、健康保険組合全体の平成30年度決算見込を見ると、黒字幅が拡大したものの、それは退職者医療拠出金の大幅な減少などの一時的な要因が大きく、赤字組合数は423組合で、依然として全組合の3割を超えています。平均保険料率は前年度に比べ0.43ポイント増の92.1%となり、11年連続の増加で過去最高となりました。また、高齢者医療の拠出金額は依然として高水準で、法定給付費と拠出金額の合計に占める割合が50%を超える健保組合は全組合の25%を占めており、拠出金が団塊の世代が後期高齢になりはじめる2022年以降、益々健保財政を圧迫することが懸念されています。

そのような環境の中、当健康保険組合の納付金・支援金も令和1年度予算ベースで保険料収入の45.1%を占め、現役世代の給付費を含めると97.1%にもなります。そのように非常に厳しい状況ではありますが、当健康保険組合では、特定健診・特定保健指導をはじめ、人間ドック、生活習慣病健診、がん検診などの疾病予防事業やスポーツクラブ利用補助、チャレンジウォーキングなどの健康維持・増進事業にも積極的に取り組んでまいりました。さらにコラボヘルスとして事業主と協働で「メタボ予測分析（メタボ流入抑制）」と「非メタボ（重症化予防）対策」を実施し、対象者の方にはその方の生活習慣改善に向けた専門職の的確なアドバイスを記載した「アドバイスシート」を送付することで皆さまの健康に対する気づきを促し、生活習慣を見直す支援もしてまいりました。

また、昨年のかんぽだより冬号より、厚生労働省、経産省、日本健康会議が共同で作成している「健康スコアリングレポート」を掲載し、その内容を皆さまにご報告しています。「健康スコアリングレポート」では、特定健診・特定保健指導の実績のほか、当健保加入者の皆さまの健康状況や医療費の状況なども業態や他健保との比較の中でレポートされておりますので是非ご一読ください。

今年も皆さまの健康づくり、健康意識向上のための保健事業を事業主と連携しながら積極的に推進してまいります。これまで以上に受診しやすい環境を整えてまいりますので、皆さまも疾病の早期発見のためにも一年に一度必ず健診を受診し、ご自身の健康を振り返り、積極的に健康の維持・増進に努めて頂くようお願いすると共に、引き続き健康保険組合の事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、被保険者の皆さまとご家族の方々の益々のご健勝をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和2年 元旦

